

# オレンジカフェ静岡

認知症の情報交換・予防・相談ができるカフェ

飲み物・お菓子

各100円

毎月第三日曜日

12/16 2~4時



石垣泰則先生

## 今月のお話

ちよつと珍しい認知症

前頭側頭型認知症ってなあに？

石垣泰則先生 城西神経内科クリニック

わが国では認知症患者とその予備軍は七百万に上ると言われています。その多くはアルツハイマー型認知症であり、加齢に伴い徐々に進行するタイプです。これから増大する認知症患者さんを少しでも減らそう、認知症になっても困らないように市民に認知症を知ってもらおう、といった主旨で始まった事業がオレンジカフェ構想であります。

一方、ほかの認知症患者さんと言動がちよつと違う認知症患者さんがたまにいます。今日のテーマの前頭側頭型認知症（以下FTD）の患者さんは、アルツハイマー型ほど多くはありません。

せんが、診断が難しく、BPSD（認知症に伴う行動精神症状）が顕著のため対応が難しいところがあります。FTDの診断の必須項目は、「進行性の異常行動や認知機能障害を認め、それらにより日常生活が阻害されている」です。初期の段階から、同居する家族や周囲の人達は、患者の「態度・共感・行為の適切さ」に何となくおかしいと感じます。しかし、本人は病識が著しく欠如しているため、発症から専門機関で診断されるまでは6ヶ月以上、平均で2年かかると言われています。対人行動が初期から障害され、社会的マナーや礼儀正しさが失われるため、周囲からは奇怪な目でみられることが多くあります。しかし、本人はその行動をうまくコントロールできないため、周りの人たちの理解と適切なサポートがとて重要になります。

本日はFTDの概要と対処方法を解説いたします。

石垣泰則先生プロフィール

順天堂大学医学部をご卒業後、神経内科医、リハビリテーション医として、約三十年前に静岡に城西神経内科

二面に続く

恒例の

上藤美紀代による

# 声のワークショップ



介護の現場で絵本が活用され始めています。先日、函南町立図書館の全スタッフと読み聞かせボランティアのご要望で、大人（特に人生の先輩方）に向けての絵本講座を持たせていただきました。テーマは「“声のちから×絵本のちから”で心の通い合うひとときを」。選書や「読み語り」・「読み合い」の方法、心得などを共に学ぶ勉強会でしたが、70代と思しきボランティアさん達が最も熱心で反応もよく、発声・発音練習にも実に気持ちよく取り組んでくださいました。何とも味のある御声の方が多く、きっと温かく深みのある読み語りをなさるのだらうな…と嬉しくなりました。皆さん明るくポジティブで、素敵な笑顔が印象に残っています。ご自分の脳を活性化させながら相手の心の動き（情緒）を豊かにして差し上げられるボランティア、ご興味をお持ちの方はぜひ御声掛けください。

今月は望月保夫さんのアコーディオン伴奏と指揮で合唱しましょう。

- ・ たき火
- ・ 冬景色
- ・ 冬の夜
- ・ 花は咲く



**今月の相談担当者**  
 今月は静和会城東ケアプランセンターから荻野久美子さん（主任ケアマネ・栄養士）がいらして皆様の相談に応じます。

クリニック、約十年前に東京に訪問診療専門のクリニックを開業され、ご多忙な日々を送られています。神経難病をはじめ、脳血管障害、認知症などの患者の訪問診療のご経験の中で、家や家族、地域そのものに治療力が宿っていることを実感され、患者に対して治療を目的とするだけでなく、安心と信頼を提供し、看取りもその延長上にあると考えていらっしゃるということです。

静岡難病ケア市民ネットワーク理事長・日本在宅医学会代表理事・日本早期認知症学会理事等

予告 来年一月のミニ講話

## 十二支ものがたい

たたらなおきさん 絵本作家

来年はいのしし年。さて、十二支ってどうやって決まったんでしょう。

そのいわれをおもしろおかしくお伝えする「十二支ものがたり」。ベートーベンの第九にのせてお送りする「十二支のうた」もお楽しみに！

（たたらなおきさんより）

たたらさんは静岡在住の高名な絵本作家です。前は、小国神社の大絵巻物（たたらさん作）から、大國主命のお話をしていただきました。

皆さん、ご自分が「十二支で何年」と知ってはいらっしゃいますが、それって何でしょう？ 楽しみですよ。

会場 静岡市葵区城東町 34-14

# 城東コミュニティプラザ HapiSpo

会場提供

社会福祉法人 静和会

主催 特定非営利活動法人  
 ヒューマン・ケア支援機構

連絡先 ☎ 090-5620-6070

✉ orange@npo-humanicare.jp

